

第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年 2月

応募者名: 札幌市建設局土木部

事業の名称: 都市計画道路3・1・1創成川通整備事業

実施都市名: 札幌市

事業目的

本路線は、札幌市都心部における南北交通の主軸であり、道路中央を流れる創成川とともに、シンボリックな南北都市軸となっている。

本事業は、昭和46年に建設された南北2箇所のアンダーパスを連続化することにより、自動車交通の円滑化及び安全性の向上を図るものである。また、アンダーパス連続化により創出された地上空間を、安らぎと憩いの親水緑地空間として整備することで、歩行者の回遊性を高めるとともににぎわいを創出し、東西市街地の連携強化による地域活性化に寄与することを目的とする。

事業概要

事業名称: 都市計画道路 3・1・1 創成川通整備事業

路線名: 3・1・1 創成川通

事業箇所: 札幌市中央区南5条西1丁目～北2条西1丁目

事業延長: 1,100m(電線類地中化: 810m、親水緑地空間: 1.8ha)

幅員: 56.82m(地上4車線、地下4車線)

事業費: 約193億円(街路事業172億円、公園事業21億円)

事業実施期間: 平成14年度～平成22年度

本事業は、創成川通の南北2箇所のアンダーパスを連続化するため、新たに900m×2箇所(南行線・北行線)の開削トンネルを整備したものである。

旧アンダーパス間の地上道路8車線のうち4車線を地下化することで、都心通過交通とアクセス交通を分離し、通過交通の速達性確保、都心部の交通混雑緩和及び道路を横断する歩行者の安全確保を図った。

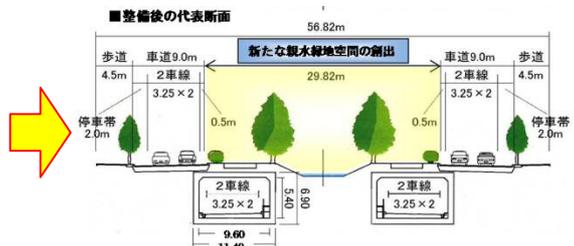
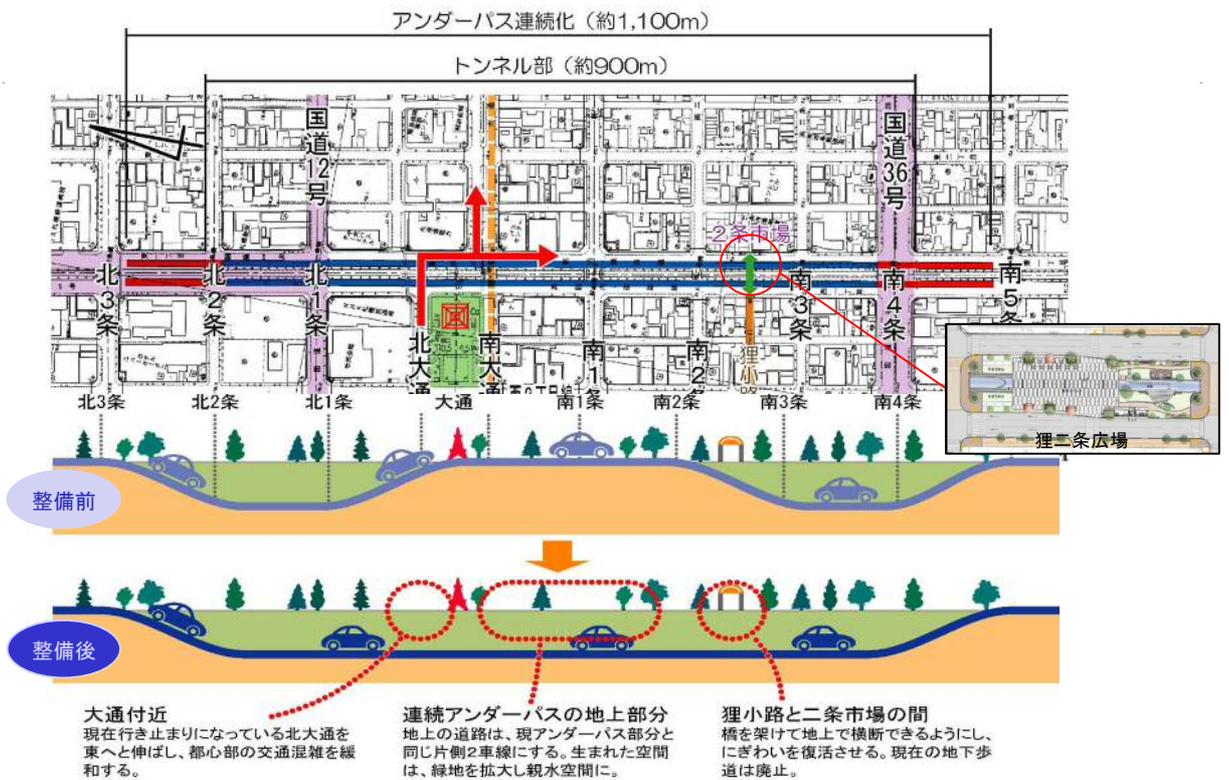
また、車線の地下化により創出された約5,000㎡の地上空間を有効活用し、新たな親水緑地空間を路線中央に整備することで、本路線を東西市街地の「分断要素」から「連携要素」へと質的に転換した。

親水緑地空間は、「つなぐ」を基本コンセプトとしたデザイン検討を行い、歩行者の回遊性向上や本市の歴史・芸術文化を感じる魅力的な空間の構築に配慮するとともに、地域活性化に寄与するにぎわいの場として、「狸二条広場」を新たに整備した。

事業位置図



全体図(平面図・側面図・横断面図)



創成川通の整備効果アピール資料

○事業概要

事業名：創成川通アンダーパス連続化事業
 路線名：都市計画道路3・1・1 創成川通
 事業箇所：中央区南5条西1丁目～北2条西1丁目
 事業延長：1,100m（電線類地中化810m、親水緑地空間1.8ha）
 幅員：56.82m（地上4車線・地下4車線）
 総事業費：約193億円
 事業期間：平成14年度～22年度



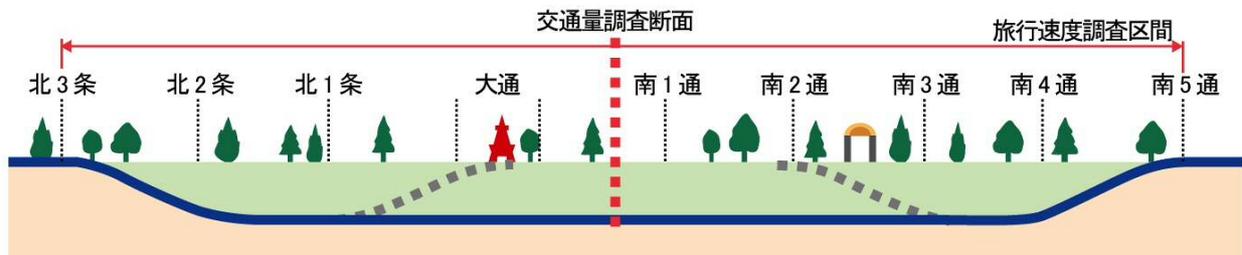
○交通量調査結果（アンダーパス新設部）

供用前 平成13年10月18日(木)
 地上部：39,622台/12時間



供用後 平成23年 9月27日(火)
 地上部：14,080台/12時間
 アンダー：23,144台/12時間

↑都心通過交通とアクセス交通を分離！



■整備効果

【自動車交通の円滑化】

- 旅行速度の向上：アンダー利用時の速度17.3km/h⇒35.4km/h
- 都心の混雑緩和：渋滞ポイントにおける滞留長180m⇒80m
- 路線バスの定時性確保：地上部のバス通過時間7.0分⇒4.3分

整備前後の所要時間

<アンダーパス連続化区間>



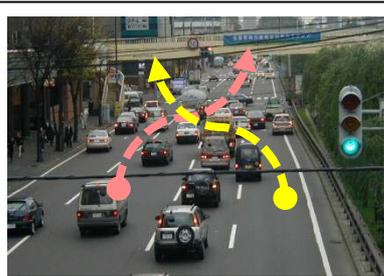
整備前 整備後

所要時間が約半減

※北3条線～南5条線のトンネル通過所要時間。

【安全性の向上】

- 交通事故の減少：
アンダーパス開通により
交通事故件数が6割減少
- 歩行者の安全確保
地上車線の減少により横断
歩行者が2割増加



←整備前の複雑な交通流を整序化！

【にぎわいの創出】

○都市の南北をつなぐ骨格軸



↑芸術作品を配置した魅力的な親水緑地空間により歩行者の回遊性が向上

○東西市街地をつなぐ連携要素

「狸二条広場」では市民による各種イベントが開催



○都市の歴史をつなぐ景観



↑札幌最古の石造りアーチ橋「創成橋」を復元
 ※H22土木学会選奨土木遺産に認定！

事業前写真



平成16年9月撮影



平成16年9月撮影



平成16年9月撮影

平成16年9月撮影



事業後写真



平成23年5月撮影



平成23年5月撮影



平成23年5月撮影



平成23年5月撮影

